

コンテキストを中心とする ゴール整合方法の提案

南山大学 数理情報学部 情報通信学科

2008MI252 津川 夏海

2008MI261 和田 百世

指導教員 青山 幹雄

シナリオ

- 中間発表の反省
- 今後の課題

問題コンテキスト図とユースケース図の違い

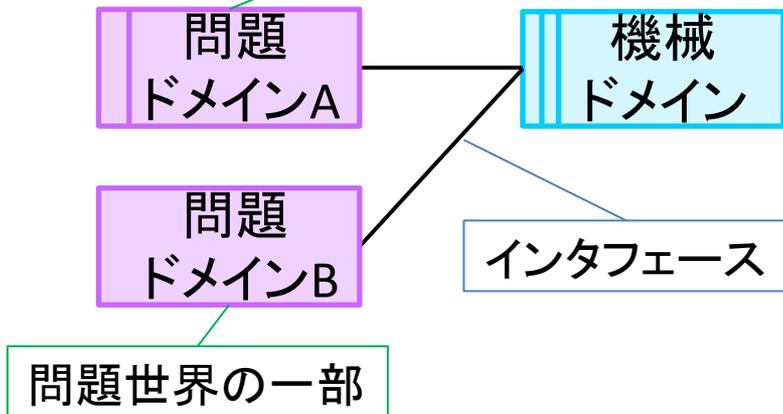
● 質問

- 関連研究(B-SCP)との違いはなにか

● 問題コンテキスト図

- 問題の範囲を表現
- 機械と問題間のインタフェースを記述

開発者がデザイン
しなければならないことを示す



コンテキストのみを表現

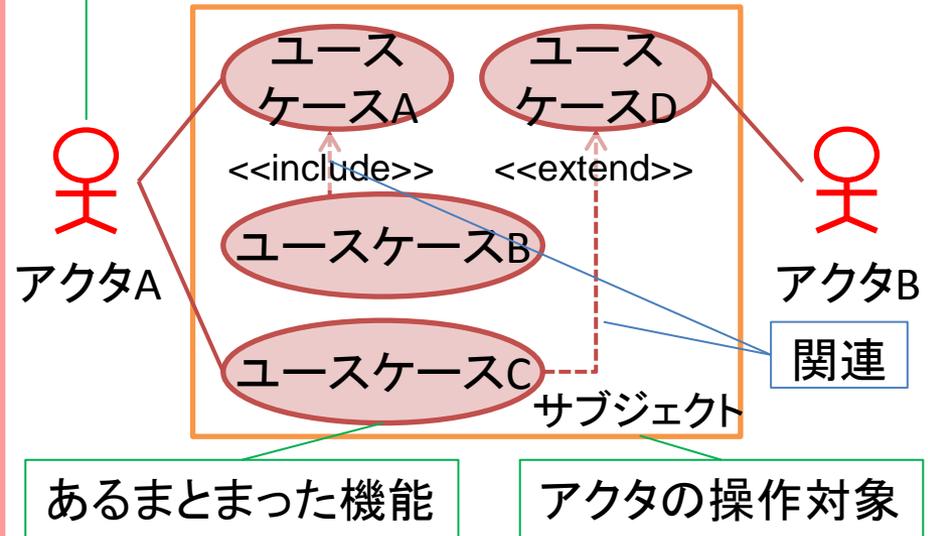
● 反省

- 関連研究(B-SCP)との違いの説明不足

● ユースケース図

- 機能要求の確認のために利用
- システムの使用手順を表現

システムに参与する人や他のシステム



コンテキストと機能要求を表現

[参考文献] G. Booch, et al, The Unified Modeling Language User Guide, and 2nd, ACM Press, 2005

[羽生田 栄一(監訳), UML2ユーザガイド, 第2版, ピアソン・エデュケーション, 三美印刷株式会社, 2010].

Michael Jackson, Problem Frames Analyzing & Structuring Software Development Problems, ACM Press, 1988

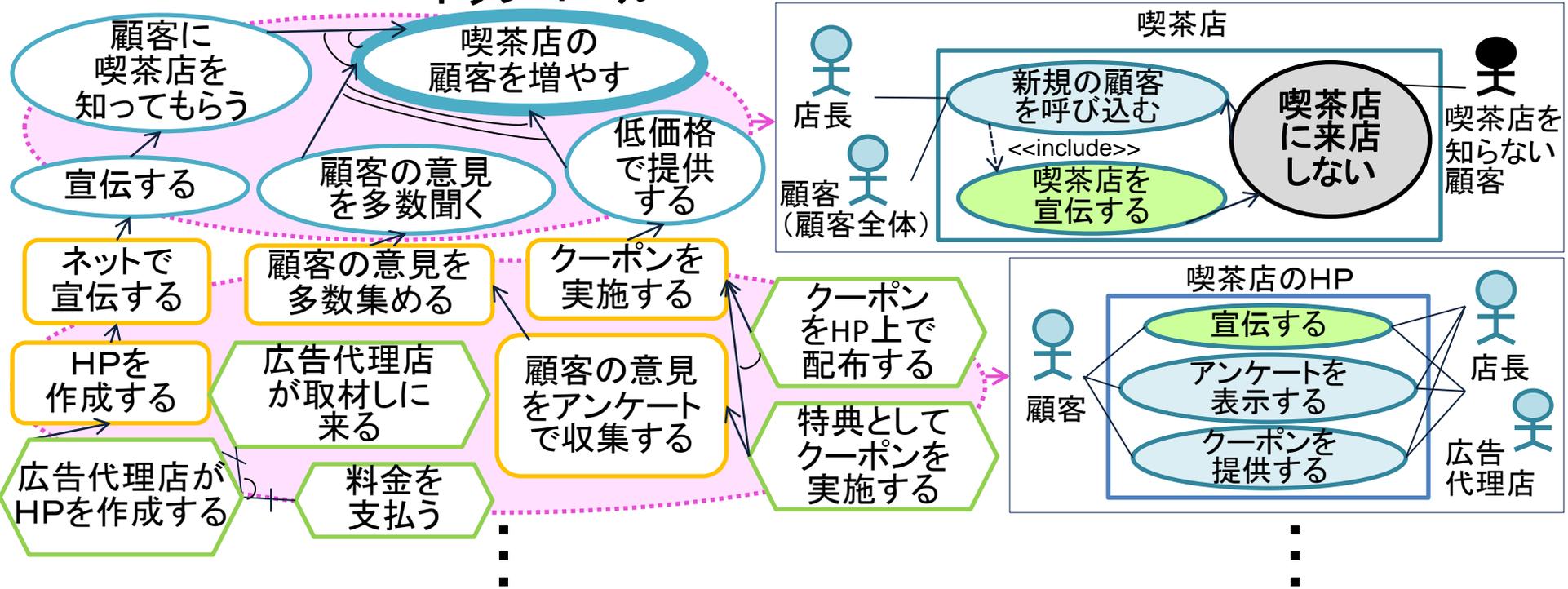
[榎原彰(監訳), プロブレムフレーム, 第1版, 株式会社翔泳社, 2006].

提案方法におけるミスユースケース図の利用方法

- システムの**必要性**をミスユースケース図で表現

- トップゴールや顧客にとってマイナス要素となる事柄をミスユースケースとして表記
- システムが実現すべきゴール層に関連付ける

トップゴール



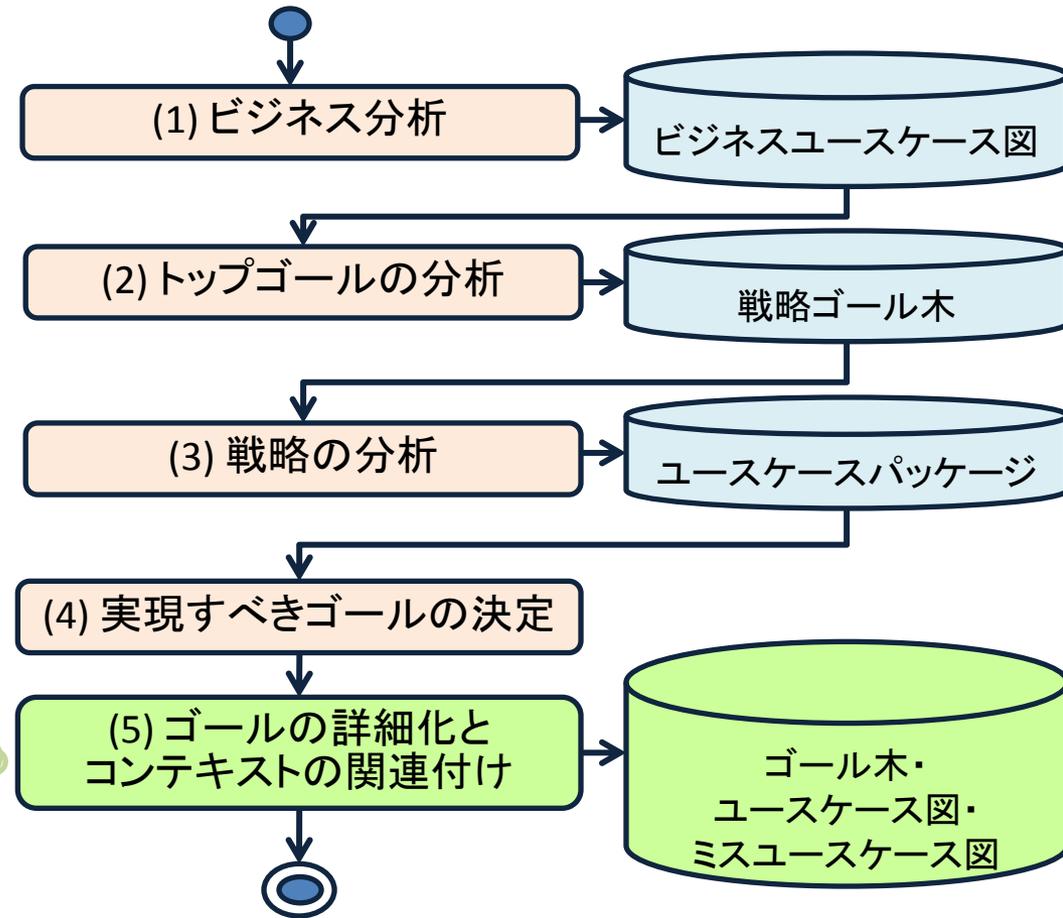
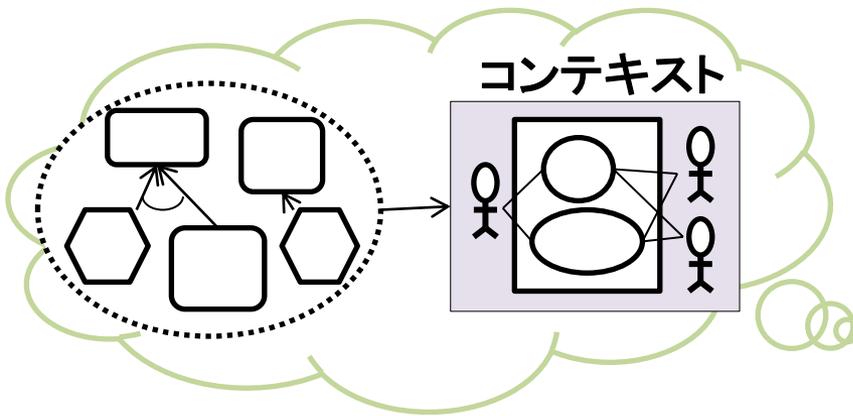
- 反省点

ミスユースケース図を関連付ける方法だけでなく、**なぜ**関連付ける必要があるかを説明する必要があった

今後の課題

ゴール整合方法の具体化

- ゴールに対応したコンテキストの情報を具体化
- 提案プロセスを段階的にゴールを整合



提案方法の妥当性評価

- B-SCPとの比較評価
- 例題による提案方法の妥当性評価

コンテキストを中心とする ゴール整合方法の提案

—END—

南山大学 数理情報学部 情報通信学科

2008MI252 津川 夏海

2008MI261 和田 百世

指導教員 青山 幹雄